

内視鏡を感染源としないために

～ WEO の内視鏡再生処理ガイドラインの要点解説と ATP ふき取り検査の活用事例～



医療編

恩賜財団済生会 横浜市東部病院
TQM センター 感染対策管理室 副室長

大石 貴幸 氏

内視鏡の洗浄不足に起因する感染拡大を回避するには「消化器内視鏡の感染制御に関するマルチソサエティ実践ガイド」（日本環境感染管理学会）などの各種ガイドラインの遵守が求められる。世界消化器内視鏡学会（WEO）は2017年、消化器内視鏡の再生処理を行う際に遵守すべき必要最低限の基準をガイドラインとして公表。

このガイドラインでは、内視鏡の洗浄消毒を行う際の要点を①ベッドサイド洗浄、②漏水テスト、③ブラッシング洗浄、④高水準消毒、⑤乾燥、⑥保管、⑦運搬、⑧水質、⑨微生物検査（清浄度評価）、⑩トレーニングと監督——に集約。本ガイドラインは今後「内視鏡の洗浄消毒の基本」として浸透していくと考えられる（本稿では各項目のポイントを概説）。

なお、内視鏡の洗浄では、最終すすぎ水の確認や、洗浄後の清浄度評価で ATP ふき取り検査が効果を発揮する。また、本稿では病院内の鋼製小物の清浄度確認における ATP ふき取り検査の事例も紹介する。